

民間企業との連携によるペットボトル水平リサイクル事業について

1 報告趣旨

ゼロカーボンシティや持続可能な循環型社会の実現を目指して、飲料メーカーと協定を締結し、家庭から収集している使用済みペットボトルについて、新たなペットボトルを製造する水平リサイクル「ボトル to ボトル」を実施するため、報告する。

2 報告内容

(1) 協定締結予定企業

コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社

(2) 事業目的

現在家庭から収集したペットボトルはパレット、繊維製品など、ペットボトル以外にも再生されているが、使用済みペットボトルは単一素材で資源としての価値が高く、リサイクル性に優れていることから、製造過程におけるCO₂発生量の低減等に向け、新たなペットボトルの原料にする「ボトル to ボトル」に取り組む。

(3) 事業期間

令和5年(2023年)10月1日から令和6年(2024年)3月31日まで(解除を申し出ない限り協定は自動延長)

(4) リサイクル量(概算予定量)

約830t程度(令和5年(2023年)10月～令和6年(2024年)3月)

※令和6年度以降は約2,000t程度

<役割と事業スキーム図>

(5) 各主体の役割と事業スキーム

ア 八王子市

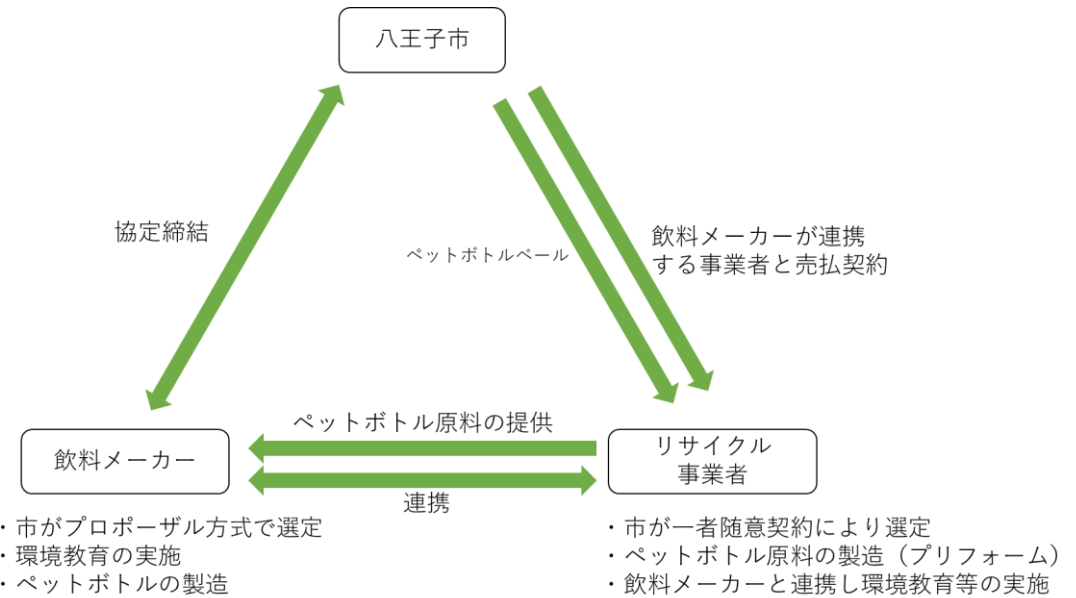
ペットボトルの分別収集・選別・圧縮梱包、
飲料メーカーが連携するリサイクル事業者へ売払

イ リサイクル事業者

市が収集した使用済みペットボトルを購入し、
ペットボトル原料を飲料メーカー（協定締結
企業）に提供

ウ 飲料メーカー（協定締結企業）

連携するリサイクル事業者のペットボトル原料
をもとにペットボトルの製造・卸売、市民への
環境教育を実施



(6) 見込まれる効果

ア CO₂発生量の低減

「ボトル to ボトル」リサイクルにより、石油由来の原料を使用してペットボトルを製造するため、二酸化炭素の発生量を約 60%削減

イ リサイクル量の増加

リサイクル事業者による選別後残渣の減少により、リサイクル量が増加し、リサイクル率が向上

ウ 啓発効果

市民にとって、リサイクル用途（ペットボトルからペットボトルへ）が分かりやすくなり、また、飲料メーカーによる環境教育の実施により、ペットボトル資源化の意識が高まるため、啓発効果が見込まれる。

3 今後について

令和5年（2023年）9月 協定締結、リサイクル事業者との売払契約締結

10月 「ボトル to ボトル」の開始